



今月の案内人 伊東茂子



今回のテーマは「野草でお花見」でした。特にキク科の仲間を中心に、春の花をじっくり観察しました。鳥は子育ての時期で、博物館のベランダに巣を作ったズメにムクドリがちょっかいを出す姿や、沼沿いでは賑やかにさえずる夏鳥のオオヨシキリの姿が見られました。



①地下にある鱗茎（りんけい）で増える南アメリカ原産のムラサキカタバミ



②キク科の舌状花の構造が分かりやすいオニタビラコの花

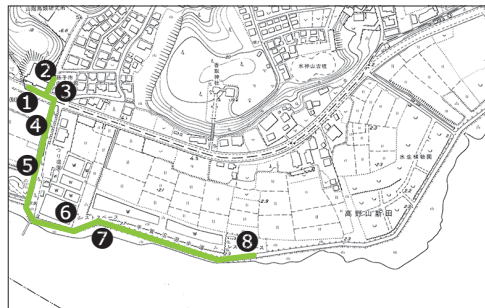


③ズメの巣にちょっかいを出していたムクドリ



④葉の付け根に層になって形成されるキンモクセイの花芽

歩いたルートと観察した生き物



⑤ 3 mm ほどの小さなクスノキの花



⑥総苞外片（そうほうがいへん）が反り返らず、上を向くのが特徴のカントウタンポポ



⑦葉の形が相撲の行事が使う軍配に似ていることが名前の由来のマメグンバイナズナ



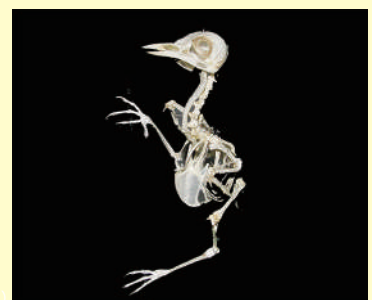
⑧よく見みると鱗片状になった葉がついているブタナの茎

今月の鳥 オオヨシキリ (ヨシキリ科)

オオヨシキリは東南アジアで越冬し、春になると北海道から九州の水辺のヨシ原に飛来して繁殖する渡り鳥です。イネ科の葉などを使ってヨシの茎にカップ状の巣を作ります。一夫多妻で、オスはヨシの先端などとまってさえずり、自分の縄張りを主張します。主な食べ物は昆虫で、細く尖ったくちばしで捕まえます。骨格を見てみると、細い茎でもとまることができるように、長く丈夫なあしをしていることがわかります。



さえずるオオヨシキリ



オオヨシキリの骨格標本

2026年5月のてがたんは当日受付にて実施しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回のとがたんは6月13日(土)で、テーマは「生き物の生存戦略」です。ぜひご参加ください。市民スタッフの皆さま、次回の下見は6月7日(日)です。

## 5月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→手賀沼遊歩道→ケヤキ広場
- 観察日時/天気：2026年5月9日(土)10:00~12:00/晴れ
- 参加人数：23人(大人17人、中学生以下6人)
- 市民スタッフ：7人(石原直子、**伊東茂子**、北村章子、小泉伸夫、古澤紀元、松田由美子、湯瀬一栄)
- 鳥博職員：1名(村松和行)

## — 観察した生き物の記録 —

下見で見られたものを含む

【鳥類】カモ科：カルガモ/キジ科：キジ/ハト科：キジバト/カイツブリ科：カイツブリ/ウ科：カワウ/サギ科：アオサギ/カラス科：ハシブトガラス/ツバメ科：ツバメ/ヨシキリ科：オオヨシキリ/ムクドリ科：ムクドリ/スズメ科：スズメ/アトリ科：カワラヒワ/ホオジロ科：ホオジロ

【昆虫】チョウ目：ヤマトシジミ、ナガサキアゲハ、ベニモントラガ、アメリカシロヒトリ(幼虫)、セグロシャチホコ(幼虫)、コムスジ、モンシロチョウ、ナミアゲハ、オオミズアオ/カメムシ目：キマダラカメムシ、ヨコヅナサシガメ、ケヤキフクロカイガラムシ/ハチ目：キムネクマバチ、ホソヒラタアブ、コハナバチ、シマアシブトハナバチ、セイヨウミツバチ、コマルハナバチ、コハナバチ/コウチュウ目：コガタルリハムシ、セボシジョウカイ、サビキコリ、クロウリハムシ、モモブトカミキリモドキ、アオグロカミキリモドキ/バッタ目：ヤブキリ、キンヒバリ/トンボ目：シオカラトンボ、ショウジョウトンボ、ウチワヤンマ

【両生類】ヌマガエル

【草の花】キク科：チチコグサ、チチコグサモドキ、ハハコグサ、オニノゲシ、ノゲシ、セイヨウタンポポ、ハルジオン、オニタビラコ、ヤブタビラコ、カントウタンポポ、ブタナ、キツネアザミ、オオジシバリ/カタバミ科：オッタチカタバミ、ムラサキカタバミ、カタバミ/オオバコ科：オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ、ヘラオオバコ、ツボミオオバコ/マメ科：コメツブツメクサ、シロツメクサ、アカツメクサ、カラスノエンドウ、スズメノエンドウ/アカバナ科：ユウゲショウ、コマツヨイグサ、メマツヨイグサ/スミレ科：スミレ/フウロソウ科：アメリカフウロ/イネ科：ネズミムギ、コバンソウ/アヤメ科：キショウブ、ニワゼキショウ、オオニワゼキショウ、チリアヤメ/サギゴケ科：トキワハゼ、ムラサキサギゴケ/バラ科：ヘビイチゴ/ムラサキ科：キュウリグサ/ケシ科：ナガミヒナゲシ/カヤツリグサ科：アゼナルコ/キンボウゲ科：ケキツネノボタン/ナデシコ科：ツメクサ、ノミノツツリ/アブラナ科：マメグンバイナズナ

【木の花】マメ科：ニセアカシア/クスノキ科：クスノキ